

在宅医療を行う医療従事者の負担軽減に関する調査

川上 ちひろ, 市川 靖史

横浜市立大学大学院医学研究科 臨床腫瘍科学

要旨: 高齢化が進み, 在宅医療を希望する患者が増加する中, 在宅医療の必要性が増している。われわれは, 在宅医療を推進する上で, 在宅医療を担っていく医療関係者の負担軽減はかせない課題であると認識している。医療従事者の負担軽減のためには, ICTを使った患者管理が必要になるのではないかと考え, そのために必要とされる通信機能付き医療機器等を明確にするために, 在宅医療を行っている医療関係者に対し, アンケート調査を実施した。今回の調査では, 患者をモニタリングするための医療機器などは, 患者管理には役立っても医療従事者の負担軽減にはつながらないと考えていることがわかった。しかし, 医療機器の種類によっては有効であると考えている機器もあった。また, その医療機器の使用法, 金額や大きさなどについても検討した結果, 使用法としては, 装着型で利用料金が安いものが好まれることがわかった。今後, 医療従事者の負担軽減のために必要な対策を検討するために, さらに調査が必要であると考えている。

Key words: 在宅医療, 医療機器, ICT, 高齢化